巡回ワークショップ　@愛知・田原市堀切校区

むすび塾

「車を利用」に賛否両論

地域の避難ルールづくり

東日本大震災の教訓から、今後の災害への備えを考えようと、河北新報社は1月27日、巡回ワークショップ「むすび塾」を愛知県田原市堀切校区で開いた。東北以外での開催は初めて。自主防災会のメンバー11人と、震災の「語り部」として参加した五十嵐ひで子さん(65)＝相馬市＝、垣上睦亨さん(40)＝多賀城市＝が、地域の避難ルールづくりなどについて意見を交わした。

議論は車を使った避難の是非に集まった。「渋滞の危険性は知っているが、高齢者や障害者が歩いて15分で逃げるのは難しい」「年寄りを連れて行く場合はやむを得ない」。短時間での避難を強いられる要援護者を気遣う意見が相次いだ。

慎重な声も出た。「四方八方ではなく、高台につながる同じ方向に逃げるだろう。1台が止まれば、みんな止まってしまう。走って逃げる人の邪魔にもならないか」

進行役を務めた減災・復興支援機構（東京）の木村拓郎理事長は石巻市出身。震災時、同市沿岸部のデイサービス施設にいた母親＝当時(96)＝が施設職員の車で高台へ逃げ、無事だったエピソードを紹介し「『車避難は絶対駄目』としていたら、施設で犠牲者が出たかもしれない。災害時に誰が車を使うか、地域で共通理解を図る必要がある」と助言した。

震災では住民を救おうとした消防団や民生委員に多くの犠牲が出た。自助と共助のバランスをめぐり、参加者からは「『災害時に自主防災会は何をしてくれるのか』という話に住民はなりがち。自助の意識を持ってもらうにはどうしたらいいか」と悩みも漏れた。

木村理事長は「つらいかもしれないが、自助を促すため、日頃から『自主防災会に頼るな』というメッセージを出すのも一つの手だ」と答えた。

五十嵐さんは津波で夫と伯父を亡くし、自分も濁流に巻き込まれた。「相馬で復興が進んでいることを知ってほしい」と地元特産の大粒のイチゴを参加者に振る舞った。

住民から「仮に地震が来ると分かっていたら、どう行動するか」と聞かれると、きっぱりと答えた。「時間を戻してもらえるなら、みんなで逃げる。すぐ避難する」

多賀城市沿岸部の勤務先「東北電機製造」で地震に遭った垣上さんは避難行動を振り返った。質疑応答で通信事情の話が出ると「携帯電話は規制がかかってほとんどつながらなかった」と説明。夜間の避難を心配する住民には、ソーラー式の懐中電灯を勧めた。

巡回ワークショップ
むすび塾

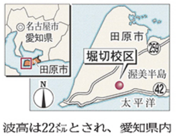
過去に繰り返し大津波の被害を受けている堀切校区。迅速な避難を目指し、堀切小の児童が持久走トレーニングに取り組むなど、地域の防災意識は高い。東日本大震災で浮き彫りになった課題について、住民と被災地の語り部が意見を交わした。

半島の先端、堀切校区　数百年おきに大津波被害

愛知県の南東部から太平洋に突き出た渥美半島の先端に位置する。堀切小の通学エリアに約500世帯が住む。花や果物の栽培、漁業が主な産業。高齢化率は28.2％で、市内でも高齢化が著しい地域の一つだ。

数百年おきに、大津波の被害を受けている。1707年の宝永地震、1854年の安政地震で６～８㍍の津波に襲われ、大きな被害を受けたという記録が地域に残されている。

南海トラフ巨大地震の国の被害想定では、同市の最大津波高は22㍍とされ、愛知県内で最も高い。高さ１㍍の津波が、最短15分で押し寄せると予想される。



地域を挙げた避難訓練や避難マップ作成などの対策を重ね、南海トラフ巨大地震に備える。同市の中でも、地震や津波に対する住民の危機意識は高いとされる。

堀切小は、海まで約700㍍と近い。海抜も５㍍しかない。震災後に避難計画を見直し、校舎３階だった避難場所を、約1.3㌔離れた高台に変更した。

全児童が15分以内に避難できることが目標。１年を通じて週３回持久走トレーニングをしたり、教室から上履きのまま外に出るなど避難方法を見直したりして、避難時間の短縮に取り組む。

■むすび塾に参加して ―― 愛知・田原市堀切校区

【避難に向けて】夜間は停電が予想され、暗くて危ない。ソーラー発電機を備えた照明が欲しい。
＝高瀬幸治さん(54)

【避難に向けて】車はやめた方がいい。渋滞したり、徒歩で逃げる人の邪魔になったりする。
＝渡会祥三さん(48)

【避難に向けて】子どもに、家族バラバラで構わないからとにかく避難所に逃げるよう話している。
＝渡会寿澄さん(46)

【避難に向けて】原則徒歩とすべきだが、高齢者や乳幼児がいれば車もやむを得ないのではないか。
＝高瀬勲さん(62)

【参加して】子どもに避難の必要性や方法を伝える際、必要以上に怖がらせないようにしたい。
＝鈴木忠夫さん(47)

【避難に向けて】小さな子やお年寄りが高台に逃げるのは大変だ。津波タワーなども考えてはどうか。
＝鈴木智文さん(46)